

頑張る

農業法人

てん茶の生産量増加や品質向上で生産者の所得向上を目指し、茶加工場を運営してきた綾部市の「綾部碾茶(てんちゃ)生産組合」を母体に2012年8月に設立した農業生産法人「株式会社綾碾(あやてん)」。

中丹地区では唯一、茶加工場を運営する任意団体が法人化している。法人化を機に加工ラインを1基から2基に増設し、適期の茶加工で高値取り引きを実現している。

同市では、茶生産の最盛期だった1965年代は生産農家が約450戸、120畝の一大産地を誇っていた。その後、生産者、栽培面積とも減少してきたが、抹茶需要の高まりを受けて、農家

約95戸で88年に生産組合を設立。原料のてん茶を加工する共同施設を運営してきた。1時間で生葉120キを処理する加工ラインを設置し、労力の削減を図り、生産量増加に貢献してきた。

一方で、高齢化により組合を脱退する農家が増えたことから、法人化により組合員の経営感覚を一層高めて施設利用を図ろうと、J A京都にのく

にや行政等の指導を受け、組合員21人の出資で同社を設立して生産組合は解散した。

役員は5人で代表取締役を中田義孝さん(64)が務める。後継者を育成するために若手の生産者を取締役に登用した。茶加工のピーク時は約18人を臨時雇用する。

綾部市

(株) 綾碾



てん茶加工ラインを増設した施設の前に頑張る中田代表取締役(中)ら全役員

適期の茶加工が成功

加工場は432平方メートルを1基増設した。2基は、同社に出資する生産

商品開発や販売先拡大も

者の全量の生葉42トを取り扱い、24時間体制で17日間稼働し、茶の価格が高い時期を逃すことなく集中的に加工ができた。荒茶の生産量も昨年を上回る7・2トで、J A京都にのくにを通じてJ A全農京都茶市場に出荷する。

中田さんは、「府内の茶関係機関と団体が一体となつて進める宇治茶GAP(農業生産工程管理)の実践に今年度から取り組み、茶加工場内の衛生管理を徹底していく。京都を代表するブランドにふさわしい茶生産を行い、茶商や消費者の信頼を揺るぎないものにし、生産者の所得向上につなげていきたい。将来は、『綾部抹茶』として商品開発や販売先を拡大していきたい」と話す。

▽法人所在地 綾部市位田町松前30の19。連絡先 0773(47)0442。